

か すまみやく
美ぎ島宮古グリーンネット



美ぎ島宮古の森植樹祭(平良宮原地区)



ドイツ人環境活動家マティアス・ゲルバー氏と植樹
(美ぎ島宮古の森植樹祭)

平成15年9月、宮古島を襲った台風14号は、島の主要産業である農業を始め、ライフラインに大きな被害を与え、防風林の重要性を再認識させることとなりました。

これをきっかけに設立された、美ぎ島宮古グリーンネットは、防風・防潮林の造成を始め、災害に強い花と緑に包まれた島づくりを百年の計で取り組んでいます。



植樹活動(郷友の森)

災害に強い緑の島へ

宮古島は総面積の半分以上が耕地であり、主な産業は農業です。この地域は昔から大型の台風がたびたび通過し、気象要因によって農業生産高は大きく左右されてきました。

特に、平成15年9月の台風14号は瞬間最大風速74・1メートルを記録し、農業およびライフラインに甚大な被害を与え、これをきっかけに防風林の重要性が再認識されました。しかし、その整備率は約20%と低いのが現状でした。

防風・防潮林や水源かん養林の造成・維持管理は、地域の発展にとって重要な課題です。そこで、森づくりを行政や補助金のみ relies ではなく、地域の財産として地域の人々により植え、育て、守っていくためのボランティア組織を立ち上げる機運が高まり、平成17年6月に美ぎ島宮古グリーンネットが設立されました。

グリーンネットは、宮古森林組合に事務局を置き、住民、地元企業、関係する行政機関等で構成し、災害に強い花と緑に包まれた島づくりを百年



保育活動(上野宮国地区)

の計で行なうことを目的に活動を開始しました。

島の在来種を植樹

森づくりのフィールドと植える樹種・本数については、宮古島の農林水産部関係機関等で構成された推進員の会議で決定しています。宮古島在来種であるテリハボク、イヌマキ、フクギ等を「適地適木」として、また景観の形成や保全に資するものとしてシークワァーサー、ブツソウゲ、ヤブツバキ等を植樹しています。

第1回の植樹活動は、平成17年9月に狩俣間那津地区で

グリーンネットでは、未来を担う子ども達に森林の大切さを認識してもらうため、緑の少年団に植樹活動へ積極的に参加してもらおうよう学校に働きかけたり、参加した子どもたちにパンフレットを配布したりしています。

平成18年8月には、新潟県上越市板倉区の子童達が来島し、地元児童と共に植樹活動に参加しました。平成19年10月には、緑の募金事業を活用し、宮古高校の生徒43人が参加して上野宮国地区で植樹・

未来を担う子ども達と共に

行なわれ、会員や地域住民等163人が参加し、727本を植樹しました。初年度は4回の活動を行い、延べ544人が参加、4432平方メートルに5169本を植樹しました。2年目からは、植樹した木の生長を助けるために下草刈り、施肥、補植(枯死した苗木の植え替え)などの保育活動も行なっています。

保育活動を行いました。

美ぎ島宮古の森植樹祭

平成22年2月までに、計26回、8カ所に植樹・保育活動を行ない、1万4105平方メートルにテリハボク、フクギ、イヌマキ、シークワァーサー等約1万4400本を植樹しました。参加人数は延べ2449人にのぼり、回を重ねるごとにグリーンネットの活動が地域に知られるようになってきました。

森づくりの機運が高まる中、平成21年12月には、平良宮原地区で「美ぎ島宮古の森植樹祭」が沖縄県、日本トランスオーシャン航空株式会社、NPO法人美ぎ島宮古、美ぎ島宮古グリーンネットの4者の主催で開催されました。ドイツ人環境活動家マテイアス・ゲルバー氏も参加し、会員、地元住民、緑の少年団約200人で、ヤブツバキ等1545本の苗木を植樹し「エコアイランド宮古島」にふさわしいイベントとなりました。



緑の少年団の子どもたちも植樹に参加(積間地区)



保育活動(上野宮国地区)

美ぎ島宮古グリーンネット

- 会員数 個人会員384人、団体会員63団体(平成22年5月現在)
- 森づくり活動フィールド 狩俣間那津地区、上野宮国地区、平良宮原地区など8カ所
- 活動日 活動計画による
- ホームページ http://www.geocities.jp/kagisuma_miyako_gn/